



平成29年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年10月24日

上場会社名 太洋工業株式会社
 コード番号 6663 URL <http://www.taiyo-xelcom.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 細江 美則
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 園部 直孝
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月1日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 073-431-6311

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第3四半期の連結業績(平成28年12月21日～平成29年9月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	3,053	18.4	58		14		26	
28年12月期第3四半期	3,742	13.7	14		10		3	

(注) 包括利益 29年12月期第3四半期 30百万円 (%) 28年12月期第3四半期 37百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第3四半期	4.51	
28年12月期第3四半期	0.64	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年12月期第3四半期	5,416	3,211	58.8
28年12月期	5,321	3,259	60.8

(参考) 自己資本 29年12月期第3四半期 3,183百万円 28年12月期 3,232百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期		0.00		3.00	3.00
29年12月期		0.00			
29年12月期(予想)				3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年12月期の連結業績予想(平成28年12月21日～平成29年12月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,173	3.9	62	9.6	55	41.2	14	74.1	2.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年12月期3Q	5,850,000 株	28年12月期	5,850,000 株
29年12月期3Q	228 株	28年12月期	216 株
29年12月期3Q	5,849,776 株	28年12月期3Q	5,849,784 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、地政学的リスクの高まりや、米国及び欧州の政治リスクによる影響が懸念され安定感を欠いたものの、企業収益の底堅さや雇用・所得環境の改善が継続するなど緩やかな回復基調で推移いたしました。

当社グループが属する電子基板業界は、製品の高性能化が継続するスマートフォン向けが市場を牽引し、加えて自動車の電装化が進むなかで車載機器向け等が堅調を維持いたしました。また、有機ELパネルのスマートフォンやテレビへの本格採用、及びIoT(Internet of Things)を指向するセンシングデバイス市場の拡大など更なる活性化が見込まれております。

このような経済環境の下、鏡面研磨機事業の売上高は増加したものの、主力の電子基板事業においてFPC試作等の受注に苦戦し、その他の事業においても売上高が減少いたしました。

これらの結果、連結売上高は3,053百万円(前年同四半期比18.4%減)と、前年同四半期連結累計期間に比べ688百万円の減収となりました。

損益については、鏡面研磨機事業における売上高増加や電子基板事業における売上原価率の低下の影響に伴う利益増加要因はあったものの、主として基板検査機事業における売上高減少に伴う影響により、営業損失58百万円(前年同四半期は14百万円の営業損失)、第2四半期連結会計期間において保険解約返戻金を営業外収益に計上したこと等から、経常損失14百万円(同10百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失26百万円(同3百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

(電子基板事業)

ディスプレイメーカー向け及びFPCメーカー向けの売上は、車載機器向けの需要が堅調であったことからFPC試作を中心に増加したものの、その他のセットメーカー向けの売上が、FPC試作及び量産案件の受注減により減少したことから、売上高は減少いたしました。損益については、外注加工の内製化等による費用圧縮を進めたことにより売上原価率が低下したことから、増益となりました。

その結果、売上高1,922百万円(前年同四半期比14.7%減)、セグメント利益260百万円(同15.9%増)となりました。

(基板検査機事業)

消耗品である検査治具等の売上は増加したものの、想定していた中国市場での各種検査機の受注獲得に苦戦したことから、売上高は減少いたしました。損益については、売上高減少に伴う影響により、損失となりました。

その結果、売上高516百万円(前年同四半期比28.2%減)、セグメント損失47百万円(前年同四半期は58百万円のセグメント利益)となりました。

(検査システム事業)

既存顧客からのリピート製品等の受注により受注残高は増加したものの、売上計上が想定どおり進捗しなかったこと等から、売上高は減少いたしました。損益については、利益率の高い検査システムが販売できたことから、損失が縮小いたしました。

その結果、売上高84百万円(前年同四半期比4.5%減)、セグメント損失6百万円(前年同四半期は7百万円のセグメント損失)となりました。

(鏡面研磨機事業)

産業機械向け及びグラビア印刷向けの受注、並びに研磨に使用する消耗品等の売上がともに増加したことから、売上高は増加いたしました。損益については、売上高増加に伴う影響により、黒字転換いたしました。

その結果、売上高242百万円(前年同四半期比86.4%増)、セグメント利益34百万円(前年同四半期は2百万円のセグメント損失)となりました。

(商社事業)

中小型ディスプレイ向けの液晶モジュール検査システムのまとまった受注があった前年同四半期の反動減により、売上高は減少いたしました。損益については、付加価値の高い商品の販売に注力したことにより売上総利益率は上昇したものの、売上高減少に伴う影響により、減益となりました。

その結果、売上高288百万円(前年同四半期比47.7%減)、セグメント利益13百万円(同67.5%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ219百万円増加し、2,696百万円となりました。これは主として、売上債権が減少した一方、たな卸資産並びに現金及び預金が増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ124百万円減少し、2,720百万円となりました。これは主として、有形固定資産の減価償却により減少したものであります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ77百万円増加し、1,123百万円となりました。これは主として、冬季の賞与引当金を計上したこと及び仕入債務が増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ64百万円増加し、1,081百万円となりました。これは主として、長期未払金が減少した一方、長期借入金が増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ47百万円減少し、3,211百万円となりました。これは主として、利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新規顧客開拓や休眠顧客の掘り起こしなど効率的に営業活動を推進し、FPCの極薄化など次世代技術力をアピールしていくことで、高い収益性が見込める高難度製品等の受注体制の充実・強化に注力してまいります。また、基板検査機については引き続き海外における販売戦略を推進してまいります。収益面については、電子基板事業を中心に原価低減による利益率向上の取り組みを更に推進することで、グループをあげて利益の確保を目指してまいります。

以上のことから、第3四半期累計期間の業績の状況及び同期間末の受注残高を考慮した上で、本決算短信発表日現在において当初予想(平成29年1月30日発表)は達成可能であると判断しており、平成29年12月期通期業績予想については、平成29年7月26日発表の「営業外収益(保険解約返戻金)の計上及び平成29年12月期 第2四半期累計期間業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、当初予想からの変更はありません。今後、重要な変更がある場合には、適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月20日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,045,991	1,139,430
受取手形及び売掛金	862,636	811,985
有価証券	30,000	1,028
商品及び製品	130,719	207,690
仕掛品	253,810	380,276
原材料及び貯蔵品	68,428	80,945
その他	86,188	75,482
貸倒引当金	△756	△445
流動資産合計	2,477,018	2,696,393
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	442,836	420,976
機械装置及び運搬具(純額)	236,229	176,098
土地	1,342,939	1,342,939
その他(純額)	14,991	11,732
有形固定資産合計	2,036,997	1,951,746
無形固定資産		
その他	28,777	22,775
無形固定資産合計	28,777	22,775
投資その他の資産		
その他	785,429	752,212
貸倒引当金	△6,688	△6,688
投資その他の資産合計	778,740	745,523
固定資産合計	2,844,515	2,720,045
資産合計	5,321,533	5,416,439

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月20日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	140,194	171,517
短期借入金	554,287	555,264
未払法人税等	20,050	9,038
賞与引当金	—	32,838
製品保証引当金	1,740	1,347
その他	329,777	353,627
流動負債合計	1,046,049	1,123,631
固定負債		
長期借入金	312,179	408,292
長期末払金	149,733	95,320
役員退職慰労引当金	176,990	184,029
退職給付に係る負債	370,197	386,311
資産除去債務	7,030	7,082
固定負債合計	1,016,131	1,081,035
負債合計	2,062,181	2,204,667
純資産の部		
株主資本		
資本金	793,255	793,255
資本剰余金	916,555	916,555
利益剰余金	1,418,579	1,374,654
自己株式	△43	△56
株主資本合計	3,128,345	3,084,408
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	84,824	75,062
為替換算調整勘定	19,754	24,040
その他の包括利益累計額合計	104,579	99,102
非支配株主持分	26,427	28,261
純資産合計	3,259,352	3,211,772
負債純資産合計	5,321,533	5,416,439

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年12月21日 至平成28年9月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年12月21日 至平成29年9月20日)
売上高	3,742,288	3,053,692
売上原価	2,862,281	2,239,969
売上総利益	880,006	813,722
販売費及び一般管理費	894,863	871,898
営業損失(△)	△14,857	△58,175
営業外収益		
受取利息	1,845	1,652
受取配当金	5,123	5,233
投資事業組合運用益	—	3,899
助成金収入	25,005	2,420
保険解約返戻金	—	23,229
作業くず売却益	12,205	10,025
その他	11,745	10,494
営業外収益合計	55,925	56,953
営業外費用		
支払利息	10,457	8,934
債権売却損	4,482	3,675
為替差損	15,042	953
その他	827	61
営業外費用合計	30,809	13,624
経常利益又は経常損失(△)	10,258	△14,845
特別利益		
投資有価証券売却益	33	—
特別利益合計	33	—
特別損失		
減損損失	1,970	1,298
固定資産除却損	326	103
投資有価証券評価損	20	—
特別損失合計	2,317	1,402
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	7,974	△16,247
法人税等	6,769	11,013
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,204	△27,261
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	4,974	△886
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,770	△26,375

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年12月21日 至平成28年9月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年12月21日 至平成29年9月20日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,204	△27,261
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△16,392	△9,762
為替換算調整勘定	△22,034	7,005
その他の包括利益合計	△38,426	△2,756
四半期包括利益	△37,221	△30,018
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△38,792	△31,852
非支配株主に係る四半期包括利益	1,570	1,834

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年12月21日 至 平成28年9月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	電子基板 事業	基板検査機 事業	検査シス テム事業	鏡面研磨機 事業	商社事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	2,253,090	719,880	88,371	129,974	550,971	3,742,288	—	3,742,288
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	—	173,067	30	7,213	—	180,310	△180,310	—
計	2,253,090	892,947	88,401	137,187	550,971	3,922,599	△180,310	3,742,288
セグメント利益 又は損失(△)	224,592	58,290	△7,438	△2,274	40,513	313,683	△328,540	△14,857

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△328,540千円には、セグメント間取引消去等7,840千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△336,380千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年12月21日 至 平成29年9月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	電子基板 事業	基板検査機 事業	検査シス テム事業	鏡面研磨機 事業	商社事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	1,922,086	516,608	84,425	242,268	288,303	3,053,692	—	3,053,692
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	—	137,948	—	7,750	—	145,698	△145,698	—
計	1,922,086	654,556	84,425	250,018	288,303	3,199,390	△145,698	3,053,692
セグメント利益 又は損失(△)	260,205	△47,074	△6,307	34,874	13,172	254,870	△313,046	△58,175

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△313,046千円には、セグメント間取引消去等16,627千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△329,673千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。